長崎建設新聞　11月20日付

全解工連九州・沖縄ブロック会議

次期ブロック長に長崎の池田会長理事

業界課題と情報を共有

（公社）全国解体工事業団体連合会（以下、全解工連）九州・沖縄ブロック会は10月29日、佐賀県嬉野市で2026年度第2回九州・沖縄ブロック会議を開催した。九州・沖縄各県の会員団体代表者ら約40人が出席。27年度の役員改選案や主要事業計画を審議したほか、各県の近況報告を通じて業界課題の共有と連携強化を図った。



▶次期ブロック長に選出された長崎の池田会長理事（左）と、現ブロック長の谷田会長

冒頭、全解工連の平典明副会長があいさつに立ち、業界における表彰制度の現状に触れた。「建設業の他業種に比べ、解体業界は大臣表彰や建設マスターなどの受賞枠が極めて少ないのが実情。大変な作業に励む職人が報われるよう、地位向上に向けて国交省への働きかけを進めている」と話し、会員の一致協力を呼びかけたほか、11月に福岡県で開催される「解体De－1グランプリ2026」への支援を求めた。

議事では、27年度役員体制案を協議し、次期ブロック長に（一社）長崎県解体工事業協会の池田正喜会長理事を選任する案を承認した。このほか、熊本地震義援金の拠出などを審議し、可決した。現ブロック長の谷田政行会長（佐賀県解体・リサイクル協議会）は、小規模解体De－1グランプリの各県での開催を呼びかけた。

報告事項では、福岡県の高校での実習授業や国土交通省職員研修における重機操作指導、12月23日に予定する九州地方整備局との意見交換会などの活動計画を確認した。各県近況報告では、各地区での発注動向や直面する課題について情報交換を行った。（一社）長崎県解体工事業協会は、民間・公共ともに仕事量は前年比で増加傾向にあると報告。活動面では、労働安全PRのぼりの製作や現場安全パトロールなどの実績を紹介した。

このブロック会議は毎年春に福岡県で、秋にブロック長県で開かれている。今回の役員改選を受け、来年度秋のブロック会議は長崎県で行われる予定。



▲嬉野温泉大正屋にて